

# 一、大報恩会のご案内

●日 時 五月三十一日(第5日曜日)

午後一時より午後三時

(お菓子を用意しております。)

●近況報告 午後一時より午後二時十五分

●法話 午後一時十五分より午後二時

興禅寺住職 北村学爾 老師

演題 『布施 ― 思いやりの心を育てて』

●報恩会の法要 (午後二時十五分より午後三時)

檀家一同と読経回向法要終了後各自

本堂より塔婆を持って御先祖様の

お墓参りをいたします。

●報恩会当日ご持参願いたいもの

東陽寺報 (令和二年第43号)

普山式・退董式記念の輪袈裟及び数珠

## 花売りだより

報恩会当日 東陽寺境内で

一束七百五十円で売っております。他より購入することなくご利用下さい。遠くからいらつしやるお檀家様の為にも、今後長く境内で販売が出来る様にご協力をお願い申し上げます。

## ●その他

例年のように報恩会の法要料として5千円(回向及び塔婆料含む)を当日来寺のとき受付にてお願い致します。

都合により報恩会においでになれない方は、同封の郵便振替用紙にて皆様ご送金お願い致します。当寺にてお塔婆を上げ供養させて頂きます。

## 二、東陽寺十大ニュース

令和元年を振り返り、住職独断の東陽寺十大ニュースを挙げてみます。

第一位は、昭和の中ごろから平成最後まで東陽寺の総代を、長きに亘り務めた長野靖様が、令和元年五月に百歳で天寿をまっとうされました。御冥福をお祈り致します。

第二位は、東陽寺のホームページを五月報恩会に向け開設することになった。

第三位は、寺に係わる時代の変化について検討した。近年少子化に伴う御檀家様の寺維持形態変化の流れは、一般檀家制度に則った制度から永代供養に則った制度に変わりつつある。この十数年の東陽寺の維持形態を調査した結果、

① 新規墓地購入檀家二十一名

② 新規永代供養二十四名

③ 一般墓地より永代供養へ移転十七名

④ 離檀六名ということが分かった。

今後も調査を継続し、現行の永代供養への流れに沿った、寺の対応も必要と考えている。

第四位は、昨年度から一年半にわたり前任職（東堂）より引き継ぎを受けた。具体的には、①法要関連——年回忌・葬儀・各種供養 ②寺行事業務関連——彼岸・お盆・報

恩会・施食会・正月・檀信徒研修会 ③経営関連——予

算・決算・責任役員会 ④業務上の関係者・紹介顔合わせ——顧問弁護士・会計士・仏教会 ⑤登記・関係諸官

庁・銀行・証券会社名義変更 書類一式等です。

第五位は、新宿区大龍寺太田孝賢老師が、私の師匠となり、その縁で毎月永平寺別院のお勤めに参加している。

第六位は、檀信徒研修会として、昨年は七月十七日に国立劇場にて、歌舞伎鑑賞を実施した。

尚、本年度の檀信徒研修会は、四月二十二日に上野国立博物館の法隆寺金堂壁画展・寛永寺参拝を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延により、本年度の檀信徒研修会を急遽中止とした。

第七位は、足立区仏教会行事

①花まつりの法要 ②年末助け合い募金の為、托鉢僧として参加した。

第八位は、本年度寄進者は、

長野榮子殿 五拾萬円 黒川泰芳殿 十萬円

細田房子殿 十萬円 があつた。

第九位は、新檀家様ご紹介

木村様・薄葉様が入檀した。引き続きご親戚や近所の方等、良き人を寺にご紹介下さい。

第十位は、新任職就任のお祝いを頂きました。  
名越登子様

以上が令和元年の東陽寺 十大ニュースです。

### 三、東陽寺にある江戸・明治時代立塔墓石

今回紹介するのは、江戸時代立塔の墓石です。既に、足立区の有形文化財として指定されている塩原太助の墓並び以前に寺報で東陽寺の過去帳に記載されている有名人小野半左衛門の墓については、「東陽寺あれこれ」の製本を見てください。

前回令和元年42号の東陽寺住職の墓標で、歴住のお墓の写真も載せました。このお墓は、平成元年に東陽寺二十九世で私の祖父である天通影地大和尚が亡くなった時に立塔しました。この歴住の墓の隣に小さな卵型（無縫塔型）の墓が、開山南翁玄舜大和尚の墓です。南翁玄舜大和尚は寛永元年（一六二四年）遷化されたが、この写真の墓石は、その当時のものでなく、明和九年（一七七二年）に東陽寺十世 梅霖寶樹大和尚により再建されたと銘文に刻まれた墓である。



銘文は次の通り記載されています。

正面中央に「當寺開山 大峯佛雄禪師南翁玄舜大和尚  
正面向かって右に 「寛永元年甲子年」（1624年）  
正面向かって左に 「九月十六日」  
背面に 「于時明和九年壬辰五月日 現住梅霖改之」  
（1772年）  
次に紹介するのは、水屋横の六地藏様の横にある墓で舟形光背型の碑型。板の墓石です。



この銘文は次の通り記載されています。

正面中央に 峯安禅定門  
成翁道圓信士  
妙安禅定尼  
成室妙圓信女  
額縁に紀年銘が彫られています。  
右 「元禄十五（1683年）壬午三月二十六日 十二月九日」  
左 「 月十二日」

先に紹介した板碑型の墓石の隣にある舟形光背型の地蔵菩薩型の墓石を次に紹介します。



銘文は次の通り記載されています。

正面中央に地蔵菩薩様が彫られ、  
その右に「空性智顛童子 俗名  
その左に「享保九甲辰天三月五日佐川才治郎」  
(1724年)



明治貳八年二月十九日  
(1895年) 如 嬰兒



寶永四年亥(一七〇五年)十二月十九日  
(1627年)